保護者のための Q&A

教育・授業　成績通知　就職　健康支援　通学　防犯　海外研修
学食・売店　学生・保護者からの相談　後援会　総合　災害時の対応

【教育・授業】

（質問） 選択科目の履修希望者が多いという理由で、抽選が行われ、その結果、抽選からもれてしまい選択科目の履修ができないことがありました。本人が学びたいと思う科目は必ず学べるようにすることはできないでしょうか。
（回答） 履修者の抽選は、授業科目により履修希望者がクラスの適正数を大きく超えた場合に行うことがあります。履修希望者が多い授業科目については、可能なかぎり教員間で履修者数調整をする、講師を増員して開講するクラスを増やすなどして、希望どおりに履修できるよう努力し、改善を図っています。

（質問） 授業中の私語などまじめに授業に取り組もうとしている学生にとって迷惑なマナー違反が目立つようです。社会人になるためにも厳しい対応をお願いできないでしょうか。
（回答） 授業中の私語の問題に関しては、学生への満足度調査の結果でも「なんとかしてほしい」との意見が多数あり、2 年前から大学としてこの問題に真剣に取り組んでいます。教員の側では、どのようにすれば授業中の私語が減るかという対策集として「私語攻略ハンドブック」を作成し、2008 年 4 月に全教員（専任教員、非常勤講師）に配布して改善運動を進めました。しかし教員側の努力と工夫だけでは改善できない状況になり、2008 年後半は、学生自身の自覚や学生間での改善の取り組みも必要であると考え、学長、学部長も出席して教員と学生の話し合いの場を持ちました。2009 年度は、教員・学生協働で改善を図ることができるようなルールづくりをする計画です。

（質問） 社会人として人とのかかわりがうまく保てるような職業人として教育していただけたらと思うのですがいかがでしょうか。
（回答） 大学では、カリキュラムを通じて、職業人として必要な知識・技術・状況判断等の能力が養われるように工夫されていますが、「人とのかかわり」は、友人関係やアルバイト、ボランティアなどの、自身の経験からの学びが大きいものです。大学としては、カリキュラムだけではカバーできないこれらの経験の機会を、掲示板などを通じて情報提供しています。教員は、その経験が職業人として必要とされる「人とのかかわり」として応用できるような指導を心がけています。

（質問） 看護・社会福祉・リハビリテーションと保健医療福祉の今後に必要な学部が揃っている利点を活かして、学生達が学部を越えて学ぶ機会をたくさん作ってほしいと思いますが、何か考えはありますか？
（回答） 対人援助における専門職種間の連携・協働の必要性を理解し、多角的なものの見方ができるようにとの科目目標を掲げて、2008 年度から 3 学部の教育課程に『専門職連携科目』2 科目を盛り込みました。1 年次に学ぶ「専門職連携の基礎」は必修科目で、3 学部の学生混成グループを基本に、保健医療福祉専門職の連携が必要な事例を学び、ディスカッションをしながら各専門職がどのように連携することができるかを考えます。2008 年度は 9 月 24・25 日の 2 日間で行い、学修の結果は個々にレポートにまとめ、3 グループに分かれてプレゼンテーションも行います。3 年後の 4 年次には選択科目として「専門職連携演習」を、同様に 3 学部の学生混成で学びます。 卒業後の活躍に必要な保健医療福祉の連携・協働を入学時から意識付ける科目として本学が力を注ぐ科目のひとつです。

【成績通知】

（質問） 2008 年度以降の入学生や希望者だけでなく全員に成績表を送ってほしいです。また、年 1 回ではなく春、秋の年間 2 回送ってもらえませんか。
（回答） 各セメスターの成績表は翌セメスターの始めに学生に配布しています。保護者の皆さんには 2008 年度入学の学生から段階的に成績表の送付を実施することになっており、第 1 回目の送付を 2009 年 5 月に行います。
　保護者の方への成績表の開示・送付については、個人情報保護の観点から、保護者と学生本人の了解のもとに慎重に行います。そのため 2008 年度入学生からは入学時に双方の意思を確認し、保護者への成績開示・郵送を希望しない場合は申出書を提出していただいています。保護者と学生の双方またはいずれかがそれを望まない場合には保護者に対して開示・送付はいたしません。2007 年度以前の学生にはこの確認ができていないこともあり、全員への郵送は行いませんのでご理解ください。ただし、毎年夏から秋にかけて行う保護者懇談会またはその他の時期にご希望があった場合は、学生本人が希望しない場合を除き開示・郵送を行っています。送付回数については、現在のところ年 1 回、春の郵送を予定しています。
　学生には 4 月と 10 月のセメスター開始時に成績表を配布していますので、お子さんとコミュニケーションをとり学業について話し合ってみてはいかがでしょうか。

【就職】

（質問） 就職活動に対するいろいろな支援をしていただいていると思うのですが、具体的に見えてこないので親としてはとても心配になります。支援の詳しい内容を教えてもらえませんか。
（回答） 就職活動は学部や進路先によってスタートが異なりますが、一般的には社会福祉学部は 3 年次生の春から、看護学部は 3 年次生の夏、リハビリテーション学部は 4 年次生の春から本格的に活動を開始します(保健師を含む公務員試

験対策は早めにスタートします)。
　低学年(1、2 年次)では、日々の授業・実習を大切にし、将来の目標について考えていきます。専門職としてのキャリア形成を図るために、本学では地域で活躍する専門職者の方による講演会を開催し、専門職としての働き方について理解を深める機会とします。また、キャリアデザイン講座を開設し、自己理解、就職活動における実践的なスキルを高める機会としています。
　高学年(3、4 年次)では、就職活動の開始に合わせて随時進路ガイダンスを行います。先輩の就職活動体験を聞く就職活動報告会、卒業生から直接話を聞く卒業生と在学生の懇談会、病院・施設・企業の人事担当者をお招きして学内で行う病院・施設・企業説明会を開催し、志望先について理解を深める機会とします。

(質問) 静岡県外出身ですが、地元に帰ってきて就職してもらいたいと思っています。静岡県外への就職活動の支援も行われていますでしょうか。
(回答) 全国の病院・施設から届いた求人票、パンフレット等は県別に整理され、就職センターで自由に閲覧できます。また、学外で行われる病院・施設・企業説明会の情報や採用試験等の情報は、就職センターの掲示板や電子メールにてお伝えしています。
　学生個々の希望については、就職ガイダンス時に進路アンケート調査を行い、就職センター職員が全員と面談して確認し、支援方法を検討します。希望に応じてその地域への求人開拓も行います。センターでは情報提供、ガイダンス、説明会等の開催に加え、学生の積極的なセンターの活用を奨励しています。

(質問) 先輩達の就職実績は保護者にどのように情報提供されていますでしょうか。
(回答) 最新の学部別就職先一覧は大学報 5 月 1 日号と一緒にお送りしています。また、一覧は大学のホームページで見ていただくことができます。社会福祉学部は 2008 年度で 4 回目、リハビリテーション学部は 2 回目の卒業生を出します。開設後年数が浅いこともあり、先輩の実績も少ないのですが、今後は単年度のみではなく、経年でデータを蓄積し情報提供を行ってきます。
　各学部とも就職希望者の就職率は 100%または概ね 100%です。ただし、看護学部とリハビリテーション学部では国家試験に合格することが内定後の条件となる場合がほとんどですので、就職活動と国家試験受験のための学習は切り離して考えることはできません。

【健康支援】

(質問) ケガや病気のときに、聖隷三方原病院で優先的に診てくれるという配慮はありますか。
(回答) 本学に隣接する聖隷三方原病院は地域医療支援病院として、さらに浜松市の救急医療体制上、2 次救急、3 次救急の役割も担っています。特に 3 次救急として救命救急センターはドクターヘリも配備し重症患者さんの受入を目的として、毎日 24 時間体制で対応しています。このように、聖隷三方原病院は最も近い医療機関ではありますが、重要な社会的役割を担う高機能病院であるため、学生の日常的な病気の場合は近隣の開業医の利用を勧めています。幸い本学周辺には、徒歩圏内に内科、整形外科、耳鼻咽喉科、循環器科、歯科、泌尿器科、産婦人科、精神科の開業医があり、恵まれた環境にあります。
　健康管理センターでは、これらの医療機関の情報を集め、受診を希望する学生の相談に対して、必要に応じこれら開業医を紹介しています。もちろん、緊急の場合は直ちに聖隷三方原病院その他の総合病院への受診を勧めたり、必要があれば受診の手配をします。また、専門医による診療が必要と思われる場合は適切な医療機関への受診につなげる支援を行っています。

(質問) 予防接種を各自で実施するのでなく大学や聖隷三方原病院で強制的に実施することはできないでしょうか。また、費用援助もお願いできないでしょうか。
(回答) 予防接種には、予防接種法で受けるよう努めなければならないとされている「定期の予防接種」と、希望者が個別に医師に相談し両者の責任と判断で行われる「任意の予防接種」があります。この「任意の予防接種」は予防接種法で決められていない予防接種や、定期接種の年齢枠からはずれて接種する場合の予防接種です。医療行為の一つとして医療機関が行うもので、費用は自費です。大学生のみなさんが受ける予防接種は法律上すべてこの「任意の予防接種」に位置づけられています。
　予防接種（定期・任意）の実施については、万が一の予防接種健康被害を少しでも減らすため、健康状態の確認、入念な予診により、慎重に予防接種の適否を判断するとともに、説明に基づく同意を確実に得ることが必要とされるため日常の健康状態をみながら予防接種を受けられるよう、個別接種が推進されています。本学においてもこのような法令に沿った考え方のもとに、学生に予防接種を勧めています。また、本学は保健医療福祉の各分野の専門職を養成する大学として感染症対策に力を入れて取り組んでいます。趣旨をご理解頂き、自分自身の感染症予防のために適切な時期に各自で必要な予防接種を受けるようにお願いいたします。
　なお、本学の予防接種に関する支援として、希望者に対して近隣医療機関によるインフルエンザワクチン・B 型肝炎ワクチン集団接種を行っています。また、予防接種に関する相談は健康管理センターで常時応じています。その他感染症対策の詳細については、入学時に保護者のみなさまに配布しました「学生の感染症予防対策について」の冊子をご覧下さい。

(質問) 学生生活を心身の健康面からサポートする仕組みについて教えてください。

（回答）大学生活が健康で実り多いものになるよう、心身の健康管理のお手伝いすることを目的に健康管理センターと学生相談室が設置されています。学生が、健康に関して不安になることがあった時は、保健師が常駐している健康管理センターをご利用下さい。相談は随時受け付けています。また学内で思わぬ“けが”をしたり、急に体調が悪くなったような場合は、応急処置を行っています。休養室もありますから、体調をくずしたときはご利用ください。

心配ごとや悩みの相談、こころの問題については、学生相談室で相談に応じています。学生相談室には、相談員が 10 時から 17 時まで常駐しています。臨床心理士によるカウンセリングは週 2 回行われています。臨床心理士と一緒に問題の解決を試みるのも一つの方法です。ひとりで悩まずにお気軽にご相談ください。お子さんのことについての、保護者からの相談にも応じています。

学生に対してのお知らせとして、新入生には、新入生ガイダンスでパンフレットを配布して、ご案内しています。在学生には、掲示で随時、健康情報とともに広報しています。

【通学】

（質問）浜松駅から直通バスを運行することはできないでしょうか

（回答）通学バスについては 2007 年度に検討し、2008 年度大学報第 31 号および後援会ホームページ「保護者のためのQ&A」で回答しているとおり、直通バスの運行についてバス会社に相談しましたが、本学のバス通学者の利用状況、駅から大学までの途中のバス停で乗り降りする学生の利便性、地域の他の利用者に与える影響等を総合的に検討した結果、直通バスの運行は現在のところ難しいという結論が出ました。ご理解のほどお願いいたします。

【防犯】

（質問）大学周辺は夜間暗く、外灯を増やすことはできないでしょうか。また、防犯にも配慮いただけないでしょうか。

（回答）大学敷地内の暗い箇所には順次防犯灯を増設しています。大学周辺については大学で設置ができないため、自治会等と協議しながら進めたいと考えています。

防犯については、女子学生が多いことから警察に夕方から深夜、早朝にかけて定期的にパトカーで巡回してもらっています。また、不審者情報についてもすぐに通報し、巡回に来てもらうようにしていますが、今後更に防犯対策を強化したいと考えています。

【海外研修】

（質問）看護学部の学生も希望者は国際実習へ行けるのでしょうか。

（回答）2009 年度から、看護学部 3～4 年次生を対象とした国際看護実習が開始されます。これは、本学の交流協定締結校であるシンガポール･ナンヤン理工学院の協力の下、シンガポール国内の病院で看護師に密着して看護を学ぶ見学実習です。現行のネブラスカ看護研修、シンガポール研修、中国研修など海外の保健医療福祉施設を見学できる研修と合わせて、さらに看護専門領域に一歩踏み込んだ内容の国際実習への参加も是非ご検討ください。ただし、国際看護実習の場合は希望者の中から参加者の選考が行われます。

（質問）英語の単位は海外研修に行けば取得できるのでしょうか。

（回答）英語の単位は、本学の指定された英語授業を学内で履修すれば必要単位数を取得できますが、毎年 3 月に実施しているオーストラリア語学研修参加者へは、英語科目 2 単位が認められます。この研修は、希望者は誰でも参加することができ、3 週間一般家庭にホームステイしながら、英語によるコミュニケーションスキルを向上させることを目標にした集中講座を受講するものです。単位認定科目は学部によって異なりますので、事前に確認してください。ただし、参加希望者が最小催行人数を下回る場合は、研修が実施されない場合もあります。

（質問）海外研修への参加者を増やすために、大学で取り組んでいることはありますか。

（回答）本学は、保健医療福祉を国際的な視点で捉え、専門職として貢献できる人材を養成することを目標に掲げ、1 人でも多くの学生が海外研修に参加できるよう、興味や目的に合わせた研修プログラムを幅広く提供しています。研修内容は、毎年見直しを行いながら参加者の意見を取り入れるなど更なる充実を図っています。また、費用面については受入教育機関へ直接働きかけを行い、民間･他大学と比較して割安な研修を実施しています。今後もより多くの学生が海外研修・実習へ参加できるように計画していきます。

（質問）我が子はあまり国際交流に関心が向いていないようですが、グローバルな視点を持てるよう大学から何かアドバイスはありますか。

（回答）1 年を通してシンガポール、中国、アジア･アフリカ、アメリカなどから様々な研修生や実習生たちが本学を訪れます。大学では、あまり海外に興味を持っていない学生にも海外からの学生と交流する機会が持てるよう授業見学、交流会、ホストファミリーの募集などを企画しています。是非それらの機会を有効に利用して積極的に関わっていただきたいと思います。海外からの学生と直接交流することで、自然に世界に向けた視野が開かれるはずです。学内で行われる国際交流に関するイベントは、事前にメールや学内掲示板などで学生に周知徹底して情報提供をしています。

（質問）短期間や見学だけの海外研修は、あまり役に立たないでしょうか。

（回答）これまで短期の海外研修に参加した学生達の声を聞くと、たとえ 1 週間の海外研修でも、現地での交流や見学から多くのことを感じ、新たな視点を持ち、自分の将来を考えるきっかけとなっているようです。また、本学のカリキ

ュラム上、短期研修は学生にとって参加しやすいかたちです。短期間では語学力向上など目に見える大きな成果を得ることは難しいですが、国際的な視点を養うための第一歩として、短期間でも重要な役割を担っていると考えています。

【学食・売店】

（質問）夜まで勉強しているとお腹がすくので食堂や売店の営業時間をもう少し延長することはできないでしょうか。
（回答）営業時間延長に伴う人件費増加を売上でカバーできる見込みがないため営業時間の延長は困難な状況です。

（質問）学食の値段はもう少し下がらないでしょうか。
（回答）材料費の高騰及び売上の状況から価格の現状維持も厳しい状況のため、価格の現状維持のための努力をしています。

（質問）下宿生活なので健康面が心配です。学食メニューなどの充実をお願いできないでしょうか。
（回答）メニューについては引き続き工夫していきたいと思います。食堂・売店にそれぞれ意見箱を設置し学生からのリクエストをいつでも聞けるよう配慮しています。

（質問）食堂が混雑するようですが？
（回答）食事の提供を行っているのは、学生ホール（2 号館）の食堂とクリストア（売店）での弁当等の販売となります。大学には長期休暇があるため食堂業者の運営は非常に厳しく、食堂運営のために後援会の補助をいただいているのが現状です。そのため、食事の提供場所を増やすことは難しいのが現実です。そこで大学では混雑緩和策として、①学生ホール（2 号館）に補助用丸椅子を設置、②屋外ベンチの設置、③売店の設置、④食事が済んだら席を譲るよう呼びかけるプレートの設置を 2006 年度までに後援会の補助で実施しました。2007 年度からは昼休みをずらすため、学部ごとに 2 時限目の始まりをずらす授業時間帯の変更を行いました。また、学友会（学生組織）が中心となってお互いに席を譲るよう掲示をしたり、呼びかけをしたりした結果、徐々にマナーの向上も図られてきています。
●食事ができる場所としては教室の他、下記の場所があります。

場　所	座席数	設　備
学生ホール（2 号館）	442 （補助丸椅子 50 脚）	自販機、給茶器、電子レンジ
第 1 体育館 1 階の学生ホール	80	自販機、給茶器、電子レンジ
和室の談話室（学生センター棟 1 階）	約 40 （和室に長テーブル）	電子レンジ
洋室の談話室（学生センター棟 1 階）	12	
歴史資料館野外テラス	24 （4 人がけベンチ 6 脚）	―
野外ベンチ	88 （4 人がけベンチ 17 脚、 4 人掛けテーブル 5 脚）	―
芝生	―	―

【学生・保護者からの相談】

（質問）心配事や質問があった場合、どこに相談したらよいのでしょうか。
（回答）ご心配なことがありましたらいつでもアドバイザーや大学代表電話等にご連絡ください。ご相談内容に応じて教員や担当部門がお話を聞かせていただきます。

（質問）保護者懇談会に参加できない保護者への情報提供と大学での様子をもっといろいろ教えてもらうことはできないでしょうか。
（回答）保護者の方に向けてのホームページ（HP）上の情報公開はこれまで主に後援会 HP で行ってきましたが、大学 HP の保護者ページトップに「保護者のための Q&A」を掲載するなど、保護者の方により広く情報が届くよう、改善を図ります。

（質問）奨学金についての詳しい情報は学生や保護者にどのように案内されるのでしょうか。
（回答）奨学金については、入学前にご家庭にお送りする「入学ガイド」に種類と金額、応募資格及び貸与条件、選考方法、募集時期、返還方法についてお知らせしています。入学後には、オリエンテーションの週及び翌週の放課後に、奨学金別の説明会を順次、開催しています。
また、年度はじめのオリエンテーション・ガイダンスで全学生に配布する「学生生活の手引き―キャンパスライフ」にも同様に奨学金の概要説明を掲載しています。学生の皆さんはできるだけ説明会に出席してください。出席できないときは学生サービスセンターで随時相談を受け、希望を確認した上で対応します。卒業後の就職に関連して奨学金の貸与がある場合もあります。その場合は学生サービスセンターのほか就職センターでも相談に乗っています。

経済状況の悪化から、学業継続のために奨学金をとお考えのご家庭もあると思います。大学では、学生・保護者の皆さんとご一緒に対応策を考えます。学生サービスセンターと大学総務部では保護者の方から直接のご連絡・ご相談も受け付けています。

【後援会】

（質問） 後援会の活動内容をもっと詳しく教えてもらえませんか。
（回答） 後援会の事業計画・予算について、年会費の通知書に同封し、また大学 HP に掲載しています。質問などありましたら大学総務部へいつでもお問い合わせください。

【総合】

（質問） 学生の意見や要望はどのように汲み上げ、取り入れていますか。
（回答） 本学では毎年、学生全員に対して満足度調査を実施し、その結果を受け、大学では組織的に改善活動を推進しています。どのように対応するか学生には掲示でお知らせしています。今後は保護者の皆様にも分かるようお伝えしていきたいと思います。全ての要望にすぐにお応えできるわけではありませんが、可能な事柄から改善を進めています。

【災害時の対応】

（質問） 災害等が起きたとき、保護者は学生の安否をどのように確認したらよいのでしょうか？
（回答） 東海地震が発生した場合を想定し、大学では年度始めに防災訓練を行っています。その中で学生の皆さんに「聖隷学園地震防災対策カード」の常時携帯を呼びかけています。このカードには聖隷学園の地震防災対策の基本事項を記載しており、中でも、大地震発生時に学生の安否を把握するための「聖隷学園安否確認システム」は、インターネットにつながる携帯電話を使って学生自らが自身の安否情報を大学へ送信するもので、防災訓練オリエンテーションの中で実際に操作をして確認しています。大学ではこのシステムを利用して学生の安否を把握します。他にもこのカードには、避難地の案内や、大地震に備える基本行動等をまとめてあります。ご家族との安否連絡には NTT 災害用伝言ダイヤル 171 の利用を案内していますので、ぜひ一度お子さんと一緒にご確認ください。また、キャンパスライフにも災害時の対応をまとめて掲載しています。